

指 定 管 理 業 務 評 価 結 果 書

1 施設の名称等

(1) 公の施設の名称	倉敷市児童館（倉敷児童館を除く）、児童センター
(2) 指定管理者	所在地 倉敷市笹沖 1 8 0 番地 名 称 社会福祉法人 倉敷市総合福祉事業団 代表者 理事長 藤澤 徳久
(3) 公の施設の所管部署	保健福祉局子ども未来部子育て支援課
(4) 評価対象期間	令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 3 1 日まで

2 総合評価結果

(1) 市の評価	児童館・児童センターは、地域の子どもたちの健全な遊び場として、地域における児童福祉の重要な拠点の役割を担っている。	総合評価
	利用者である乳幼児とその保護者、小学生及び中高生などそれぞれの年齢層に合ったイベントなど工夫を凝らした行事を実施し、合わせて保護者の子育て支援や相談対応を行い、地域との連携を深めている。その結果、倉敷児童館を含む児童館・児童センター 6 館合計でおよそ 2 3 万 8 千人もの方に利用者していただき、館により多少の増減はあるものの、全体としては前年度より増加している。 こうした中、令和 6 年度の評価に当たっては、「事故防止・防犯対策」、「保護者の子育て支援」、「こども等の意見を表明しやすい環境づくり」の三点を重視して評価を行った。 事故防止については、病気、負傷等のマニュアルを整備したり、緊急連絡先を明示したりする等の基本的な対応ができているほか、ヒヤリ・ハット事例の情報共有を職員間で行うなど事故防止の対策ができている。遊具についても、職員が毎日清掃・点検するとともに、専門業者による点検を年に 1 度は行い、不備があれば速やかに改善し	S

	ており、備品の転倒防止措置なども確実に実施している。防災防犯についても、マニュアルを整備し、避難訓練を実施しており、対策が徹底されている。今後についても、前年度に策定した安全計画に基づき、また、必要に応じて改定を行いながら、引き続き子どもたちが安全安心に利用できるよう、しっかりとした運営を行ってみたい。 保護者の子育て支援については、日ごろの声掛け等で保護者とよい関係性を築いており、普段のなにげない会話のなかで保護者の不安解消に努めている。また、関係機関と連携し子育て相談やふれあい活動を実施したり、子育てイベントの情報提供を行うなど、保護者と関わる機会を設けたりしている。今後については、利用者同士の相互交流ができるイベントの充実など、より利用者が安心して利用できる居場所となるよう努めていきたい。 こども等の意見を表明しやすい環境づくりについては、従来から引き続き、職員による来館時や各部屋での声掛けを各館共通して実施しており、利用者とのコミュニケーションが図られるとともに、気軽に話しやすい雰囲気作りができています。また、これに加え、意見箱を設置し、直接意見が言いづらい利用者への配慮もなされている。また、館によっては、壁面飾りの一部に子どもが自分の思いを書いて飾るイベントを季節ごとに実施したり、子どもから意見を募集し月ごとに内容を変えた遊びを行ったり、積極的な取り組みもあり、今後も引き続きこども等の意見を表明しやすい環境づくりに努めていきたい。	
(2) 指定管理者の自己評価	地域の児童が心身ともに健やかに育つための環境づくりを行うとともに楽しくふれあえる場、安心・安全に過ごせる居場所を提供し、児童福祉の向上に努めました。 保護者の子育て支援にも取り組み、相談対応や情報提供を積極的行いました。 ・児童館で共通に取り組んだ事業 児童福祉週間の一環として、各児童館の特色を活かした行事「ごー！ごー！！じどうかん」をそれぞれの地域の現状に応じた形で行い、参加者に楽しんでもらうことができました。	

・おでかけ児童館事業

楽しい遊びを積み込んだ「おでかけ児童館号」で、地域のイベントや親子クラブ、放課後子ども教室等、児童館を利用しにくい地域へ出向いて工作や遊びを提供する「おでかけ児童館」を、倉敷児童館を含めた 6 児童館で 3 4 5 回実施しました。

また、6 館合同で「キッズカーニバル」を実施した他、「スポーツフェスティバル」や「くらしき健康福祉プラザまつり」、「倉敷市こどもまつり」等に参画しました。

・地域の健全育成の環境づくり

児童館活動の内容を広報くらしきや子育て支援アプリ、児童館だより、ホームページ等で P R し、児童館活動に関する理解や協力が得られるように努めました。

・ボランティアの育成

児童館を利用するこどもがボランティアとして活動できるよう支援しました。

また、感染症に留意しながら、学生ボランティアを可能な限り受け入れて次世代育成に努めました。

・休日保育に関する事業

倉敷北児童センター内において、休日に保護者の就労等で家庭での保育が困難な時に乳幼児を預かる事業に取り組み、児童館のノウハウを生かした保育を実施し、保育ニーズに応えました。

・倉敷北児童センターの体力増進指導に関する事業

遊びや行事（運動を主とする。）を通して体力増進を図ることを目的として、こどもが運動に親しむ習慣を形成しました。

真備健康福祉館職員による鉄棒やとび箱等の指導により、参加者は楽しみながら様々な運動に取り組みました。

また、体力増進指導を通してこどもの社会性を伸ばし、心と身体の健康づくりを図りました。

・玉島児童館の地域子育て支援拠点事業

玉島児童館 3 階に常設しているつどいの広場では、おおむね 3 歳までのこども及び保護者を対象として、子育てに関する相談や援助、地域の子育て情報や親子交流の場の提供等を行いました。

0・1 歳つどいのひろばや、2・3 歳遊びの広場、誕生会、

ベビーマッサージ、離乳食教室、音楽親子遊び、身体計測の行事を実施し、親子のふれあいを深めました。子育てに関する相談では、必要に応じて関係機関への連絡も行いました。

・岡山県児童館連絡協議会の運営業務

「岡山県児童館連絡協議会」の会長職と運営事務局業務を担い、研修会の開催や児童館のネットワーク作りに努めました。

・自主事業

季節を感じる簡単な調理体験や食べることの大切さを理解できる活動を通して、食に対する関心をもつ機会を提供しました。

発達段階に応じた年齢別行事を実施し、親子や友達と交流する機会の充実に努めました。

「おもちゃバンク」の周知を図りつつ、交換又は譲渡の方法や開催方法を改善しながら実施し、おもちゃの再利用の促進に努めました。

地元の中・高校生の夏のボランティア体験や職場体験を受け入れ、次世代育成に努めました。

事業団職員を講師とし、こどもや保護者を対象とした「運動遊び」や「育児相談・身体計測」、「福祉体験」等、利用者のニーズに応えられる企画の実施に努めました。

また、児童館職員が講師として、真備健康福祉館にて「親子ふれあい遊び」を実施しました。

〔各館で個別に取り組んだこと〕

倉敷北児童センター

こどもの思いを表現できる場として、壁面飾りの一部に自分の思いを書いて飾る方法で実施しました。クリスマスや新年バージョン等、季節に合わせて形を変えて実施することで、興味をもって自分の思いを自由に書く機会となりました。

水島児童館

こま・けん玉等のチャレンジカードを活用し、「チャレンジひろば」を実施しました。こどもたち自身の興味・関心に合わせて目標を決めることで、繰り返し練習に励み、だんだんと上達して目標をクリアする達成感を味わう姿が見られました。

児島児童館

気軽に毎日チャレンジできる挑戦遊び「レッツ！チャレン

	ジ」を実施しました。こどもから意見を募集し月ごとに内容を変え、一緒にルールや遊び方を考えました。友達同士で楽しく競い合う姿が多く見られ、小学生の遊びとして定着しました。 玉島児童館 中・高校生の意見を取り入れ、乳幼児とふれあうことができる「夏まつり」や「電車遊び」等の行事を実施しました。お兄さん、お姉さんと遊びたいこどもの参加が増えたり、児童館活動や子育て支援の楽しさを感じたりする機会になりました。 真備児童館 「スライムを作ろう」等の簡単な工作や「カプラで遊ぼう」等の遊びを、いつでも気軽に組みんだり、挑戦したりできる形で実施しました。幼児から中学生まで幅広い年代のこどもたちが楽しんで取り組んでいる姿が見られました。
(3) アンケート結果の概要	6 児童館分をまとめてグラフ化し、提出します。

3 施設の利用状況

(1) 利用実績				
	名 称	利用者数（人）		特記事項
		令和 6 年度	令和 5 年度	
	倉敷児童館	53, 116	53, 371	
	倉敷北児童センター	52, 182	49, 201	
	水島児童館	30, 009	28, 890	
	児島児童館	23, 775	21, 193	
	玉島児童館	44, 891	41, 968	
	真備児童館	33, 849	34, 214	
	合 計	237, 822	228, 837	
開館日一日あたりの 平均利用者数	136. 6	130. 2		

(2) 事業の内容	・児童館で共通に取り組む事業として「ごー！ごー！！じどうかん」を地域の現状に応じた形で実施 ・6館合同で、「キッズカーニバル」を実施し、「スポーツフェスティバル」や「くらしき健康福祉プラザまつり」等のイベントに参画 ・地域のイベントや親子クラブ、放課後子ども教室等、児童館を利用しにくい地域での「おでかけ児童館」を実施 ・遊びを通して健全育成を図る体力増進活動、文化・創造活動、食育活動の促進 ・こども同士の交流及び日常生活の支援 ・こどもと保護者が自由に交流できる場所や子育てに関する情報の提供 ・関連機関の協力を得ての子育て相談やふれあい活動の実施 ・児童健全育成のための広報活動 ・地域組織（母親クラブ）活動の支援 ・ボランティアの育成、実習生や体験学習の受け入れ、地域住民がボランティアとして活動できる場を可能な限り提供 ・配慮を必要とするこどもへの支援 ・休日保育事業（倉敷北児童センター） ・体力増進指導に関する事業（倉敷北児童センター） ・地域子育て支援拠点事業（玉島児童館） ・岡山県児童館連絡協議会の運営業務 ・自主事業（食育活動、おもちゃバンク、ボランティアや実習生受け入れ、異年齢又は年齢別の行事、事業団内での講師派遣交流）
(3) その他	・引き続き利用者に手洗いや換気等の感染症対策への協力を求め、机の配置の工夫や消毒作業等により環境を整えながら利用者を受け入れ、行事を実施しました。 ・小学校、幼稚園の学校評議員会や子ども・子育て支援審議会等、関係機関の各種委員を積極的に努め、地域の子育て支援団体とも連携しました。 ・引き続き備品配置や運用ルールの検討を重ね、利用者の安全確保に努めながら開館しました。

(1) 収入 (指定管理者の収入)	総額 1 4 8 , 4 6 8 千円 市からの指定管理料 (委託料) 1 4 7 , 8 7 4 千円 利用料金 4 1 9 千円 その他の収入 1 7 5 千円
(2) 支出 (指定管理者の支出)	総額 1 4 7 , 6 9 5 千円 主な支出 人件費 1 0 5 , 6 7 4 千円 光熱水費 7 , 6 6 7 千円 修繕料 1 , 6 0 7 千円 備品購入費 0 千円 消耗品費 2 , 2 4 4 千円 施設管理委託費 7 , 4 5 2 千円 その他経費 2 3 , 0 5 1 千円